

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立各務原西高等学校

学校番号

12

## I 令和2年度 自己評価

教務

### 本年度の当初に立てた目標

- (1) 基礎学力の定着と応用する力の育成  
教育課程を通して、基礎・基本となる知識・技能を身に付けさせるとともに、その力を応用できる思考力・表現力・判断力を育成する。
- (2) 探究する姿勢の涵養  
様々な事柄に興味を持ち、より深く探究しようとする姿勢を涵養する。
- (3) 学習環境の確立  
授業を通して、社会人として必要となる、マナーや姿勢を身に付けさせる。
- (4) 教育課程の編成  
単位制高校としてふさわしい教育課程について検討を深め、来年度以降に編成する。
- (5) 業務量の低減  
教員の働き方を見直し、業務量の低減を図る。

### 目標に対する達成度と評価

達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- (1) 高い5-----4-----3-----2-----1 低い
- (2) 高い5-----4-----3-----2-----1 低い
- (3) 高い5-----4-----3-----2-----1 低い
- (4) 高い5-----4-----3-----2-----1 低い
- (5) 高い5-----4-----3-----2-----1 低い

評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

#### 評価すべきこと

- (1) 本年度は臨時休業に伴うWEB講座から開始した。本校では、学習指示書や教科に偏らないWEB講座等を時間割に基づき、非常に意欲的に取り組むことが出来た。また通常授業の開始後も、それらの取り組みを踏まえてICTを取り入れた授業を積極的に推進することが出来た。
- (2) 本年度から探究の時間を1、2年次に行う教育課程に変更した。休業期間等による変更や、ふるさと事業の変更等があったものの、目的や目標を踏まえて、計画的に実施することができた。
- (3) 2年次における文Ⅱ型を開講する等、生徒の目標に見合った履修体制を整えたこともあり、生徒の意識は向上し、授業に取り組む姿勢は全体として高くなってきている。
- (4) 探究の時間を1、2年次に実施する教育課程実施の1年目として、円滑に移行を進めることができた。また単位制高校としてあるべき姿を踏まえて、来年度や新学習指導要領の実施に向けた教育課程の編成をすることができた。
- (5) 職員会議の実施時期等、年間計画を見直して業務量の低減に努めた。

#### 改善すべきこと

- (1) WEB講座等の異例な新年度の開始となり、積極的に様々な取り組みに対応できたものの、その進捗の制御や定着度のフィードバックが困難であり、対面授業の開始後も試行錯誤が続く状況であった。このことは学力が低い層における学習の定着の課題が顕在化したものと考えられることから、今回の事例を教訓として学力の底上げに取り組みたい。

- (2) 総合的な探究の時間は、計画に基づき推進できたが、授業中での取り組みは今後の課題である。来年度は、1、2年次で培った探究的な取り組みに対する力や姿勢を教科の活動に引き上げていくことが目標となる。教科の中で実施していく方策等について検討を深めて、生徒のためになる活動を教員の負担とならないように実施していきたい。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のために、グループワーク等の生徒が主体的に活動する取り組みを積極的に取り入れにくい状況のため、無気力な生徒が少なからず発生している点が課題である。グループワークに頼らない、主体的な取り組みの場面や方法の研究や開発が必要である。
- (4) 編成の過程で提案から決定まで期間が短かったため、教科間の意見の集約や生徒への履修指導等が不十分であった。来年度は新学習指導要領に基づく教育課程を編成しなければならないため、事前検討を深めて余裕のある編成を行いたい。
- (5) 休業期間中におけるWEB講座等では先生方の熱意や使命感が高く、パワーポイント等の作成に対する業務量が非常に大きく課題であった。講義形式による生配信等、コンテンツによらない手法の開発や定着が課題である。

## 生徒指導

### 本年度の当初に立てた目標

- (1) 次代を担う社会の一員となるために必要な倫理観と規範意識を身につけ、主体的な判断や責任ある行動ができる生徒を育成する。
- (2) 安全で安心な学校生活を送れるよう全職員で組織的な生徒指導を目指す。

### 目標に対する達成度と評価

達成度 (上記の(1)～(2)についての評価)

- |         |   |   |   |   |    |
|---------|---|---|---|---|----|
| (1) 高い5 | ④ | 3 | 2 | 1 | 低い |
| (2) 高い5 | ④ | 3 | 2 | 1 | 低い |

### 評価 (評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等)

#### 評価すべきこと

- (1) 大きな特別指導の事案もなく、多くの生徒が落ち着いて学校生活を送れている。
- (2) 生活委員会の挨拶運動・清掃活動を通じて、身だしなみや挨拶などの啓発活動を実施し、全校生徒に浸透してきている。
- (3) 教育相談係が担任や年次と情報交換が出来ており、支援を必要な生徒に寄り添った指導ができています。
- (4) スクールカウンセラー等活用事業では、毎回多くの保護者や生徒とのカウンセリングを実施し、専門家との面談を行うことで、生徒理解や情報共有に繋げることができた。
- (5) アンケート調査をもとに、全職員で情報を共有しながら適切な指導や対応ができた。

#### 改善すべきこと

- (1) 登校日数が例年に比べて少ないにもかかわらず、12月末時点で10件(昨年度1年間で11件)の交通事故が発生した。余裕を持って登校することや、交通ルール・マナー(特に登下校時のイヤホン)の遵守について指導していく。
- (2) 授業でのスマホ利用については、教科担任の負担や指導効果を考えると使用許可申請がなくても使用できるようにしてみる。ただし、そのことでスマホの利用ルールを守れない生徒が増えた場合は見直す。
- (3) 今年から県下統一でメールによる「心のアンケート」「いじめに関するアンケート」が行われているが、特に「心のアンケート」の実施回数が多く、形骸化している。また、期限までに生徒の回答が得られないことが多く、係が大変である。来年度は名前だけでなく出席番号を登録することや、出来る限りメール回答できる環境を整えたい。(アンケート回数を減らしてもらうように依頼済み)

## 本年度の当初に立てた目標

- (1) 進路意識の向上
  - ① 安易な進路決定に流れないような進路意識の高揚を図る
  - ② 最後まで粘り強くあきらめずに学習する意欲の育成
  - ③ 主体的な進路探究の推進
- (2) 進路実現に向けての学力の向上
  - ④ 基礎学力の定着と大学入試に対応できる学力の養成
  - ⑤ 自律的な学習習慣の育成

## 目標に対する達成度と評価

達成度（上記の①～⑤についての評価）

- |        |   |       |   |       |   |       |   |       |   |    |
|--------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----|
| (1) 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (2) 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (3) 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (4) 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (5) 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |

## 評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

### 評価すべきこと

- (1) 進路意識の向上について
  - ・ 年次ごとに外部講師による進路講演会（今年度はWEB）を実施し、進路目標達成のために必要な力や心構えなどを聞くことで、進路意識の向上につなげることができた。
  - ・ 「進路の手引き」に先輩の『合格体験記』を記載することで、最後まで諦めずに学習することの大切さを伝えることができた。
  - ・ 「看護説明会」や「教職説明会」などの系統別ガイダンスを実施し、多くの希望生徒が参加し職業観の育成につながった。
  - ・ 1年次生の進路探究学習として、「夢ナビライブ講義動画」を利用。自分の興味のある学問分野に関する大学の講義動画を視聴し、その結果をレポートにまとめ、学部・学科研究を深めることができた。
- (2) 進路実現に向けての学力の向上について
  - ・ 1・2年次の模擬試験に向けて「実力養成期間」を設けることで、全体的な意識向上につながった。
  - ・ 土曜補習、放課後補習および夏季・冬季補習において、主にハイレベルな講座を開講することで大学入試に対応した力をつけることができた。
  - ・ 小論文指導と面接指導を全校体制で実施することで、濃密な指導ができた。
  - ・ 放課後の学習室解放により、自律的に学習できる環境を整え、自主的に学習する生徒の支援ができた。

### 改善すべきこと

- (1) 探究部・教務部と連携しながら、1・2年次の総合的な探究の時間において、進路探究学習のありかたを考える。
- (2) コロナ禍における体験学習（オープンキャンパスや大学の主催する講座、体験型プログラム等）やインターンシップ等への参加の在り方を考える。
- (3) 教員間の共通理解を図り、生徒が納得できる進路選択ができるように、生徒個々にあった進路指導をより一層心掛ける。
- (4) 教員および生徒・保護者への理解の徹底を図るために、ピンポイントで各年次の生徒・保護者が求める情報を把握し、細目に発信するように心掛ける。

## 本年度の当初に立てた目標

- (1) 生徒会活動の充実
- (2) ホームルーム活動の充実
- (3) 学校行事の充実
- (4) 部活動の充実
- (5) 各種交流活動・ボランティア活動の充実
- (6) リーダー性や自主性の発揮

## 目標に対する達成度と評価

## 達成度（上記の(1)～(6)についての評価）

- |     |    |   |       |   |       |   |       |   |       |   |    |
|-----|----|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----|
| (1) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (2) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (3) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (4) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (5) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (6) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |

## 評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

## 評価すべきこと

- (1) 執行部と各委員会および議会とが連携し、コロナ禍での青桜祭などの実施に取り組むことができた。
- (2) 前期は、文化委員が中心となり「文化祭クラス企画」について3回の統一LHRを行い、後期はHR委員が中心となり、生徒会が選んだテーマで「統一LHR」を行った。
- (3) 文化祭や体育祭（球技大会）など、生徒主体で運営できるようになってきた。文化祭では文化祭実行委員が中心となり、生徒の手で創り上げる文化祭を実現することができた。体育祭は球技大会の形であったが、生徒主体で行うことができた。
- (4) コロナ禍で思うような活動ができない面の多かったが、部顧問が互いに連携し、生徒との信頼関係を築きながら、限られた活動時間内で、熱心に指導をし、充実した活動を行った。
- (5) 各務原特別支援学校との直接交流は出来なかったが、ひばり祭へ本校生徒の様々な作品などを貸し出し、交流を継続することができた。また、社会福祉協議会などと連携して行う募金活動などで、地域社会の一員である自覚を高めることができた。
- (6) 各方面で、教員のサポートのもと、生徒がリーダーシップを発揮し主体的に活動できた。

## 改善すべきこと

- (1) 次年度も生徒主体の形を進めつつ、更にステップアップできるよう、教員側のサポート体制を整える。
- (2) 今年度のアンケート結果をもとに、更により文化祭、体育祭にするために、生徒会役員と教員との話し合いを行い、改善策を早めに決める。
- (3) 部長会の活動を活発にする。
- (4) 交流活動、ボランティア活動については、制約も多くあるが、参加した生徒の満足度の高い活動を検討し実施する必要がある。

## 本年度の当初に立てた目標

進んで奉仕する心をもって、環境整備に努めるとともに、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培い、心身共に健康で明るく活力ある西高生の育成に努める。

- (1) 自己の健康管理に努める。
- (2) 環境の美化保全に努める。
- (3) 生命の安全に留意する。

## 目標に対する達成度と評価

達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- |        |   |       |   |       |   |       |   |       |   |    |
|--------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----|
| (1) 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (2) 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (3) 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |

## 評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

### 評価すべきこと

- (1) 学校行事（定期健康診断・命を守る訓練・心肺蘇生法講習会等）は、新型コロナウイルス感染症のため変更・中止が余儀なくされたが、多くの先生方のご協力によりスムーズに実施できた。
- (2) 新型コロナウイルス感染症対策として、新たな取り組みも行った。
  - ① 毎朝昇降口での健康チェック、手指消毒
  - ② 毎日2回の消毒作業
  - ③ 各教室、手洗い場にアルコールおよび石けん液の設置
  - ④ 食事の仕方等の指導（向かい合わずおしゃべりしない、教室以外での食事の場の提供等）
  - ⑤ 換気を促すポスターの作成および放送
  - ⑥ 加湿器の設置等、学校全体で協力して取り組めた。
- (3) 5月に予定していた「命を守る訓練」は実施できなかったが、10月にはコロナ対策をして実施した。マスクを着用し、年次毎に時間差を付け避難し、校庭では距離を取り整列した。
- (4) 1年次生、職員で予定されていたAED・心肺蘇生法講習会は今年度実施できなかった。
- (5) 美化委員会を中心とした大掃除・落ち葉清掃・教室のワックスがけ・掃除倉庫の管理等主体的に活動できた。
- (6) 毎月生徒の健康課題を踏まえた「ほげんだより」を継続的に発行し、健康への啓発を行うことができた。

### 改善すべきこと

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策を今後も継続し、新たな方法や改善も状況に応じて加えていきたい。また冬場での換気については今後どのようにすべきか考えていく必要がある。
- (2) 行事後の掃除時間の確保・掃除方法・工夫の周知ができると良い。
- (3) 「命を守る訓練」では抜き打ちでの実施が効果的ではとの意見もあり、今後検討していきたい。

## 本年度の当初に立てた目標

- (1) 図書館活動の充実（読書促進・図書資料の整備・図書委員会の活発化・教科との連携強化）
- (2) 校誌『さくらぎ』の発行
- (3) 「芸術鑑賞会」の円滑な実施
- (4) ふるさと教育（地域課題探究型学習）の推進

## 目標に対する達成度と評価

### 達成度（上記の(1)～(4)についての評価）

- |        |   |       |   |       |   |       |   |       |   |    |
|--------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----|
| (1) 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (2) 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (3) 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | ③ | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (4) 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |

## 評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

### 評価すべきこと

- (1) 図書館活動の充実について
  - ① 読書週間に合わせたイベントの他、生徒の個性あふれる「よむよむザウルス」（図書委員）・「推薦図書一覧」（全職員）の発行や展示の工夫によって、読書を促すことができた。
  - ② 「朝の読書」は6年目に入り、その意義・効用について共感と理解が深まった。
  - ③ 図書委員が主体的に活動し、文化祭の展示や広報活動に積極的に取り組んだ。
  - ④ 探究型の調べ学習で図書館を利用する授業に対して、教材となる資料を迅速に揃えてサポートすることができた。
  - ⑤ 図書館主催の「教養アップ講座」が恒例行事として定着してきた。
- (2) 校誌『さくらぎ』は、見直しを重ね、昨年度に改善を加え、「学校の記録を残す」というスタンスで印刷製本した精度の高いもの発行した。今年度も同様のものを発行する予定。
- (3) 芸術鑑賞会は「N響金管トップメンバーによるアンサンブル」を予定していたがコロナ感染予防対策のため中止。次年度、同内容で実施予定。
- (4) 「ふるさと教育」は1、2年次生が総合的な学習の時間などを活用して、昨年度の実施内容を踏襲しながら年次、教務部と連携し、岐阜大学教授や社会人講師、各務原市役所の方々、年次の先生方の協力の下で実施することができた。コロナ禍の影響で1年次生の施設見学、企業フェスは実施できなかったが、代替のもので補うこともでき、生徒たちにとって、地域社会について知る良い機会となった。

### 改善すべきこと

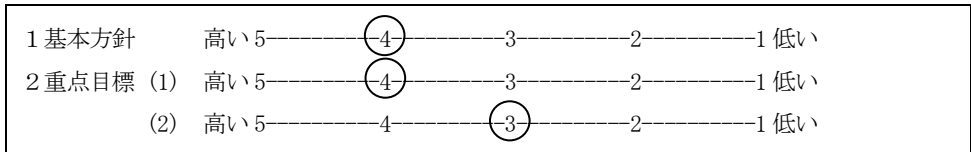
- (1) 図書館を利用した探究型の学習について、関係教員との事前打合せをしっかりと行い、資料準備やレファレンスをさらに円滑に進めたい。また、教科だけでなく分掌や年次とも連絡を密にして関連資料を整備し、その展示を工夫したい。
- (2) 貸出冊数を増やすための工夫を凝らし、より多くの読書体験を積ませたい。授業等での図書館活用も一層推進する。
- (3) 新しい図書館システムを有効に活用できるよう他校とも連携を図っていきたい。
- (4) 「朝の読書」や「教養UP講座」を継続し、行事として定着させたい。
- (5) 芸術鑑賞会はこれまでの経緯から、外部会場に移動して行うことは難しいが、体育館でもあまり遜色がなく、生徒に満足してもらえる内容のものを選定・実施したい。
- (6) 「ふるさと教育（地域課題探究型学習）」は年次と教務協力下で充実した内容のものが実施できているが、さらに探究部としてできることを考えていきたい。

### 本年度の当初に立てた目標

- 1 基本方針  
地域及び生徒・保護者に根ざしたPTA活動の推進を行い、学校と会員との連携を図り相互理解を深めるために活動を活発化する。また、生徒個々の進路目標を達成するための支援を行う。
- 2 重点目標と取り組み
  - (1) PTA活動の充実 PTA活動の活性化、家庭との連携重視、公正な会計の執行
  - (2) 同窓会活動の振興 同窓会との連携・協力、同窓会活動への支援

### 目標に対する達成度と評価

達成度 (上記の1~2(1)(2)についての評価)



### 評 価 (評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等)

- 評価すべきこと**
- (1) コロナ禍で制約のある中、PTAと学校が緊密な連携を取り、信頼関係を深めることによって、楽しく活発なPTA活動を行っていただいた。
  - (2) PTAの役員は、昨年度に続き選出方法を変更することで、HR担任の負担を減らすことができた。
  - (3) PTA総会は中止となったが、執行部会で決定した各議題を文書で通知した。その後、意見をメールで受け取ることとしたが、円滑に進めることができた。  
(H27: 33% → H28: 31% → H29: 30% → H30: 33% → R1: 28%)  
保護者へのアンケート結果は肯定的評価が高く、昨年度に比べると若干上昇した。(下記※7月実施)  
※学校は、PTAや部活動講演会等の関係団体の徴収金について、その予算や決算、経費の執行内容を詳細に公表している。(91.7%: +0.5)
  - (4) 文化祭 (PTAくじ引き大会) は、PTA役員の方々が主体的に、楽しく積極的に取り組んでいただいた。また、くじ引き会場での生徒と保護者の関わりも良好であった。
  - (5) PTA研修会は、参加者 27 名と少なかったが、昨年度比で大きく増加し参加者には好評であった。(12 名: +225%)
- 
- 改善すべきこと**
- (1) 球技大会のスポーツ飲料の配布は、大会の時期や内容を受けて実施するかを検討したい。
  - (2) PTA大学見学会は、国公立・私立、文系・理系に配慮しながら、愛知県内を候補に来年度以降も実施していきたい。
  - (3) 同窓会の活動がほぼ休止の状態、創立 40 周年の準備を早急に進めなければならない。

### 【意見・要望・評価等】

- ・生徒の自律的、主体的な学習習慣の育成こそ教務部と進路指導部に共通する一番の課題であると思います。そのような中で教員のサポートの下、特別活動部において、生徒たちが主体的に活動できたことは大変評価できることです。
- ・ICTを取り入れた授業は、画像や動画を活用することで理解しやすくなり、主体的・協働的な授業は、生徒の学習に対するモチベーションを高めると思います。また、進路指導部の外部講師による進路講演会は、とても生徒一人一人のためになっていると思います。生徒の感想から、進路実現に向けて考え方や視野が広がって良い刺激を受けられたと感じました。講師の方々の声が、生徒に響いているのを感じました。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策により、教育活動に多くの制限がある中でいろいろと工夫され、各部の自己評価において達成度が高いことは、非常に良かったと思います。学校の行事への取組、生徒への思いやりはかなり評価でき、生徒も安心して学校に通うことができている。
- ・地域課題探究型学習は、感染防止対策によって体験的学習の実施が制限される場合もあると思いますが、こうした取組は、今後ますます重要になってくると考えます。計画に沿った取組ができることを期待します。
- ・校内の消毒の他、健康チェックカードを活用した対策等により、クラスターの発生もなく学校活動が行えたことは、学校、生徒、家庭のそれぞれの取組の成果であると思う。